



水郷こしがやに 出会う

あなたの近くにもある水辺 水の豊かなまち

皆さんは越谷市が古くから「水郷こしがや」と呼ばれるほど水の豊かな地域として発展してきたことはご存じでしょうか。越谷市には大小さまざまな水の流れがありますが、大きいものだと、大落古利根川、中川、綾瀬川、新方川、元荒川という5本の一級河川の流れがあります。これらの一級河川は江戸時代から幾度となく行われた河川工事により現在の流れに変わってきたのですが、それらの工事に伴って、用水路も整備され

ていきました。疏水百選（平成18年に農林水産省主体で行われた日本の農業を支えた疏水（田畑へ水を引くことを目的に人工的に造られた水路）を保全し、次世代に残す活動の一つ）に選定された葛西用水を筆頭に、27もの主要用水路が市内を流れています。このほかにも普通河川や用水などがたくさん市内を流れていますが、今号は、そんな「水郷こしがや」を皆さんの身近なところからちよつとつご紹介していきます。



越谷市と松伏町との境を流れる大落古利根川にある古利根堰。江戸時代から続く堰で、葛西用水の取水に利用されます。



中川と大落古利根川の合流地点。下流（写真左）で元荒川と合流します。



元荒川の下を葛西用水が通るとい珍しい川の立体交差で「伏越」と呼ばれます。



- | 市の主要用水路 | | | |
|---------|----------|---------|------------|
| ① 平方川 | ② 上船川 | ③ 下船川 | ④ 新松川 |
| ⑤ 小樋口川 | ⑥ 差輪川 | ⑦ 寺前川 | ⑧ 葛西用水(逆川) |
| ⑨ 掛樋堀 | ⑩ 弥十郎川 | ⑪ 花田用水 | ⑫ 四ヶ村用水 |
| ⑬ 谷古田用水 | ⑭ 東京葛西用水 | ⑮ 八条用水 | ⑯ 新用水 |
| ⑰ 見田方用水 | ⑱ 新見田方用水 | ⑲ 南百用水 | ⑳ 須賀川 |
| ㉑ 森野川 | ㉒ 竹道川 | ㉓ 末田大用水 | ㉔ 越谷用水 |
| ㉕ 根井堀用水 | ㉖ 谷中用水 | ㉗ 出羽堀 | |



県民健康福祉村の敷地の中心を末田大用水からつながる新川が流れます。西にある池のほとりにはくつろぐ人の姿が見られ、のんびりとした時間が流れます。



出羽公園には大きな池があり、池のほとりをぐるりと散策することができます。

綾瀬川緑道の路面の一部には50メートルごとに目印のラインが引かれており、みなさんに親しまれています。



綾瀬橋近くの水門はきれいなモザイクアートで彩られています。対岸からしか見られない絵柄にもこのこだわり。すべての面で絵柄が違うので確かめに行かれてはいかがでしょうか。

史跡 蒲生の一里塚

P.5 花木みどりの会の活動場所

P.6 越ヶ谷高校ボート部の練習場所

田んぼアートはここ

水郷の歴史と豊かな自然にあふれる

散策エリア



中川のプロフィール
 起 点：左岸・右岸 / 羽生市
 流路延長：約84km
 (市内は約4 km)
 流域面積：約810km²

元荒川との合流

中川と元荒川の合流地点。手前の中川に正面から元荒川が合流しています。右手奥に見えるのは約2*₆離れた東埼玉資源環境組合第一工場の展望台です。

東京湾まで続く中川は、越谷市と松伏町、吉川市の間で大落古利根川、新方川、元荒川と次々と合流したのち、東京都内で綾瀬川と合流します。中川の全域にマハゼやボラなどが生息しているほか、広い河川敷には川岸のヨシ原にはサギ類やカモ類などの多くの野鳥が飛来します。日常的な散策に少しレジャーを足して、バードウォッチングなどを楽しむのもいいかもしれません。

また、東埼玉資源環境組合第一工場（リユース）の南側、新方川を挟んだ場所にある水田では、平成22年から田んぼアートが行われています。見頃の7月〜8月には、ぜひ絶好の鑑賞ポイントであるリユース展望台からご覧ください。



見頃は7月〜8月
 広大な水田があってこそこの田んぼアート。今年にはリオデジャネイロオリンピック競泳女子200mバタフライ日本代表の星奈津美選手が描かれます（写真は昨年の様子）。

のどかな田園風景が広がる 郊外エリア

かつての越谷市は関東平野に広がる穀倉地帯の一部でした。周りを河川に囲まれ市内に張り巡らされた用水によって豊かな水を確保できたため、栽培に多くの水が必要とする米づくりが盛んに行われてきました。首都近郊に位置し、周囲に大勢の消費者を抱えることから、新鮮な農産物を新鮮なまま流通できる利点を生かして農業が発展してきました。

現在も新方・増林地区のねぎや、荻島・出羽地区のくわいをはじめ、質の高い農産物が生産されており、平成23年度に創設された「こしがやブランド」には古くからの特産品である米を使った太郎兵衛もちや、くわいを使ったお菓子も認定されています。



新方川のプロフィール
 起 点：左岸 / 春日部市
 右岸 / さいたま市岩槻区
 流路延長：11km
 (市内は約10km)
 流域面積：約40km²

越谷の名産品

くわい

越谷の名産といえば…ねぎ！最近ではイチゴも有名になってきましたが、ねぎと並んで越谷で昔から有名だったのが「くわい」。

ユリ根に似た丸い野菜です。水田のような泥の中で育ち、地下にもぐった茎にできる、養分をたくわえて丸くなったほふく茎という部分を食べます。

もともと越谷は湿気の多い土地が多く、古くからくわいの生産が盛んでした。

現在でも市西部の荻島地区・出羽地区を中心に栽培されていますが、栽培や収穫が難しいこともあり、最近は生産者が減ってきています。

くわいは大きな芽が出るので縁起がよいとされ、お正月に食べるおせち料理には、くわいの煮物が入ります。

独特のほろ苦さとホクホクした食感があり、大きいものは薄くスライスして、小さなものはそのまま油で揚げるとおいしいです。

収穫の様子



須賀川

田んぼに水が入ると、いよいよ越谷も夏を迎えます



県民健康福祉村を流れる新川

市内の農業用水のほとんどは利根川の水で、元荒川や葛西用水、大落古利根川を経て市内の田畑へと供給されています。水田や畑に必要な水を供給し、不要な水を排水するための用水路は、水の運搬だけでなく、洪水の防止（地表の水を川へ導く）や、美しい田園風景、私たちが水に親しむための空間作りにも役立っています。

用水や川のそばには、県民健康福祉村などの池のある公園も多く整備されていて、池のほとりでくつろぐ人や、運動する人の姿も見られます。

ちよつと注目・歴史遺産

蒲生の一里塚

藤助河岸の近くには、「蒲生の一里塚」があります。県内の日光街道沿いに唯一残っている一里塚（約3.9km）に設置された目印で、塚の上にマツやスギなどを植え、道程の目標や旅人の休息の場などに利用されていました。

たもので、県の文化財として史跡に指定されています。一里塚とは、江戸時代、街道沿いに一里（約3.9km）ごとに設置された目印で、塚の上にマツやスギなどを植え、道程の目標や旅人の休息の場などに利用されていました。

綾瀬川のプロフィール
 起 点：左岸・右岸 / 桶川市
 流路延長：約48km
 (市内は約6 km)
 流域面積：約176km²

江戸時代以前は雨が降ることに川の流れる道筋が変わるので「あやしの川」とも呼ばれた綾瀬川。川に面して立っている建物とその周辺が藤助河岸跡で、昭和初期まで船着場として利用されていました。

綾瀬川は、越谷市と川口市、草加市との間を流れています。綾瀬川は、一時期、流域の急激な都市化の影響で全国一級河川水質ランキングの最下位を記録しました。しかし、平成7年から綾瀬川の「清流ルネッサンス21」計画などにより流域の都県・市区町が一体となって環境改善に取り組んだ結果、水質の改善が進みました。住宅地に囲まれた綾瀬川ですが、川沿いには藤助河岸や蒲生の一里塚など歴史的な名所があり、時代の流れを感じながら散策が楽しめます。

伊原橋〜天神橋付近の東京葛西用水緑道

葛西用水という中央市民会館東側付近が取り上げられがちですが、実はその先も続いています。私たちは平成24年から東京葛西用水緑道の維持管理活動に協力して、伊原橋から天神橋の間で樹木を中心に50種類以上の植物を育てています。今は草加市との境まで他にも二つの団体が活動し、さまざまな草花で見どころを演出しています。これからの時期はアジサイやタチアオイなどが見頃を迎えますので、歩きやすく整備された東京葛西用水緑道へ、ぜひ足を伸ばしてみてください。

本当の葛西用水を見に来てください

花みどりの会代表 阿由葉 眞折さん

葛西用水という中央市民会館東側付近が取り上げられがちですが、実はその先も続いています。私たちは平成24年から東京葛西用水緑道の維持管理活動に協力して、伊原橋から天神橋の間で樹木を中心に50種類以上の植物を育てています。今は草加市との境まで他にも二つの団体が活動し、さまざまな草花で見どころを演出しています。これからの時期はアジサイやタチアオイなどが見頃を迎えますので、歩きやすく整備された東京葛西用水緑道へ、ぜひ足を伸ばしてみてください。

大落古利根川のプロフィール
 起 点：埼玉県久喜市
 左岸 / 北葛飾郡杉戸町
 右岸 / 久喜市
 流路延長：約26km
 (市内は約11km)
 流域面積：約182km²



元荒川のプロフィール
起 点：左岸・右岸／熊谷市
流路延長：61km
(市内は約12km)
流域面積：約210km²

葛西用水のプロフィール
起 点：左岸・右岸／行田市
流路延長：37km
(逆川として約5km)
灌漑面積：6000ha

大相模調節池(レイクタウン)

現在のような都市化が進む以前は、たとえ大雨で川があふれてもやがて大地に吸収され土地の隅々まで水と養分が行き渡っていく自然の循環がありました。しかし市街化が進み水田が宅地化されると、あふれた水の行き場がなくなり洪水や浸水被害に悩まされるようになりまし。そこで、治水対策のために作られたのが調節池。川に大量に流れこんだ水があふれないようためておくための施設です。

大相模調節池では、洪水の影響がない日には水門を操作し、潮の満ち引きを利用して池内の水質を保ちます。通常時は水深が1〜1.5m程度と浅く、小型ヨットやカヌーなども楽しめます。潮風こそ吹かないものの沖に流される心配もないため、海のない埼玉県内で貴重な体験ができる場所となっています。また池の北西部にはピオトープという自然観察区域が作られています。



お買い物もマリンスポーツも楽しめるレイクタウン

水のまち、あれこれ

ピオトープ ってなあに？

学校の裏庭だったり、自然公園の一角にあたりする「ピオトープ」。そもそも何語なのでしょう？ 英語？

正解はドイツ語で「Pitopal」。Pioはパイオ、すなわち命や生物で、topは場所という意味。直訳で「生き物のいる場所」とりわけ「野生の生き物が生息する環境」という意味で使われることが多く、要は自然に近い生態系を観察できる場所がピオトープです。

大相模調節池の北西部に広がるピオトープでは、アシなどの水生植物や季節ごとによつてくる水鳥、さまざまな昆虫や魚が生息しています。



元荒川と葛西用水

元荒川(写真左)と葛西用水(写真右)は治水対策として、中央に設けられた中土手により完全に分離されています。

二つの河川と用水が並行する約1.2kmの区間、葛西用水の水辺には花壇や遊歩道が設けられ、春にはチューリップ、初夏にはハナショウブやアジサイが楽しめる親水緑道として親しまれています。葛西用水は、現在の埼玉羽生市から利根川の水を取水し、途中で大落古利根川、そこから分かれた逆川を経て、末端は東京都足立区まで続く全長約70kmにも及ぶ排水路です。江戸時代に開発された用水で、河川を用排水路として活用し、取水地点に溜井(河川を堰き止めて作った用水池。上流の排水を下流の用水に使う)を設置しています。

中央市民会館の東側の「葛西用水」は、江戸時代の頃から川を堰き止め「瓦曾根溜井」と称されていて、灌漑用水として利用されてきました。現在の市役所庁舎のあるところも以前は瓦曾根溜井の一部でした。

かつては大落古利根川から逆川として分流したのち、そのまま元荒川に合流していましたが、治水上の理由から葛西用水の分離工事が行なわれ、いったんは元荒川を立体交差でくぐり、瓦曾根溜井に流されて、しらかばと橋のそばの水門で元荒川と合流するようになりました。

平成23年4月には葛西用水ウッドデッキが整備され、さまざまなイベントが行われており、夏に行われる花火大会も毎年ぎわいを見せています(今年は7月30日(土)に開催予定)。中土手から打ち上げる花火はとて迫力があると評判です。

阿波踊りだけじゃない! 日本3大〇〇!!

越谷の夏の風物詩「南越谷阿波踊り」が徳島・東京高円寺とともに日本三大阿波踊りの一つに数えられているのは有名ですよ！実は他にも日本3大〇〇があったんです！それが葛西用水！

水面から青春を感じて



越ヶ谷高校ボート部副部長 鶴見 真治さん

僕たちボート部員が入部して初めてボートに乗るのが市役所横の葛西用水と元荒川です。春のうちにここで練習し、夏の合宿でダムのような水深のあるところで漕ぎます。

陸上部にとつての校庭のように、僕たちの活動には葛西用水や元荒川はなくてはならない場所です。ただ、決してわが物顔で使うのではなく、「使わせていただいている」気持ちを持たないようになっています。例えば、釣りをしている人のそばを通るときは漕ぐスピードを落としたり



水辺で活動する一員として、皆さんが気持ちよく利用できるように心がけています。



葛西用水親水緑道のハナショウブとチューリップ

いかがでしたか？

今回は、普段の生活の中でたびたび目にする「川」や「用水」から、水郷こしがやを紐解いていきました。いよいよ夏本番、水辺が気持ちいい季節がやってきます。皆さんも「身近な水の風景」を見つけて出かけてみませんか？

